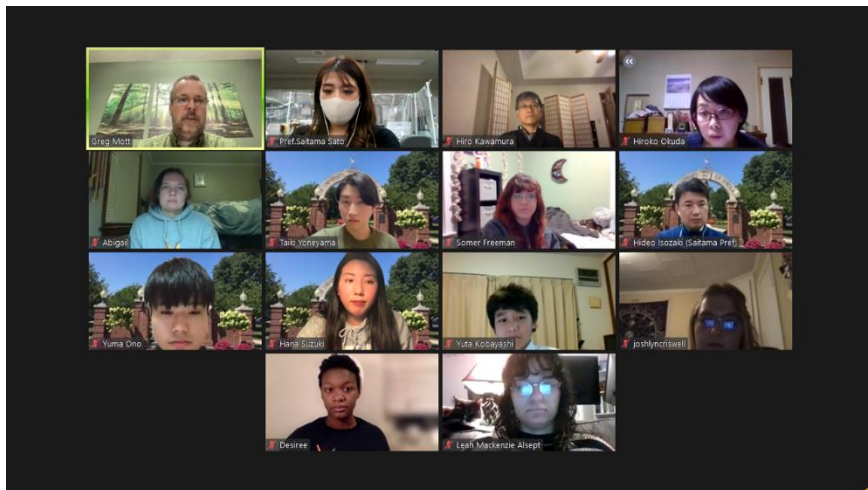


OSGS プログラムの良さ

小林 優太

僕がこのOSGSプログラムに約2か月間参加して思ったOSGSプログラムの良さは、英語だけに限らずコミュニケーション能力が高まる、ということと、楽しい、ということです。なぜそう思ったか、この2か月間何をしてきたかについてまず記します。

まず、グレッグ先生の授業についてです。OSGSプログラムでは、Greg Mott先生が英語で授業してくれます。グレッグ先生の授業はとても楽しく、リラックスできます。今まで3回授業を受けましたが、どちらも英語での「会話」や「発表の仕方」といった内容が含まれていました。もちろん、最終的な発表についても勉強になる内容がたくさん含まれているのですが、グレッグ先生はコミュニケーション能力のはぐくみに力を入れている気がします。



<写真> 1回目の授業の様子

次は、ペアになった学生との交流についてです。OSGSプログラム（特に後期）ではフィンドレー大学での学生とペアになって各年代の音楽についての調べ学習や考察を

行っています。こちらもとても楽しく、画期的だなあと感じています。ZOOM を用いたミーティングや LINE でのやり取りを通して、日本とアメリカで情報交換をしています。

そして、埼玉親善大使としての活動についてです。埼玉親善大使として、後期のメンバーとこれからの活動でなにをするかなどを話し合っています。まだ本格的な活動には移れていませんが、前期のメンバーにもアドバイスをもらい、話し合いを進めています。

これら3つのことを経験して、自分の良かった点は、ある程度の積極性は保てたということです。具体的にはグレッグ先生の授業での発言やペアとの情報交換などの場面です。対して悪かった点は、少し努力が足りないということです。例えば、グレッグ先生の授業で宿題が出されるのですが、その宿題に対しての「調べ」が浅い、ペアとの交流でも知識、情報のたくわえが少ない、また会話への参加や埼玉親善大使の活動への意欲などの点でまだまだだなと感じております。

最後に、OSGS プログラムの良さは、

- ・「英語」を学べる（会話を通して学ぶことがあり、さらに習った会話術を使って話しているうちに楽しく英語が身につくということです。）
- ・経験したことのない英語の授業が体験できる
- ・調べ学習や会話を通して積極性が生まれる
- ・埼玉親善大使の活動を通してメンバーでの絆が生まれる

などです。

2か月間 OS GS プログラムに参加してきましたが、残りの2, 3か月も今まとめた悪かった点を踏まえて活動を見直し、改善していきます。